



雪の日もお祭りも 地下鉄だから 快適に出掛けられる。

市営地下鉄は、札幌オリンピック直前の昭和46年、南北線の開通を皮切りに、東西線、東豊線の新設や延伸が進められてきました。開業40周年を迎えた現在、総延長は48kmに達し、雪にも強い生活に欠かせない足として、また、大都市札幌の成長を支える大黒柱として活躍しています。

地下鉄
DATA

- 利用者数/1日約56万人(平成22年度)
- 運行本数/1日1,002本(平成22年度)

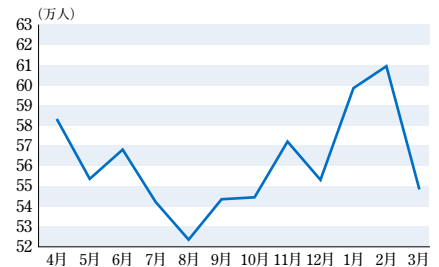
意義

屈指の正確さを誇る 積雪大都市の大動脈

地下鉄の最大の魅力は、正確かつ頻繁なダイヤ。朝のラッシュ時には約4分間隔、日中も約7分間隔で運行しています。天候に左右されず、予想外の渋滞や駐車場待ちの心配もないため、予定通りに目的地まで移動することができます。

雪の影響を受けないその便利さにより、地下鉄沿線には人口が集中し街が発展。積雪大都市札幌の成長に大きく貢献しています。

■一日平均乗車人員の月別推移(平成22年度)



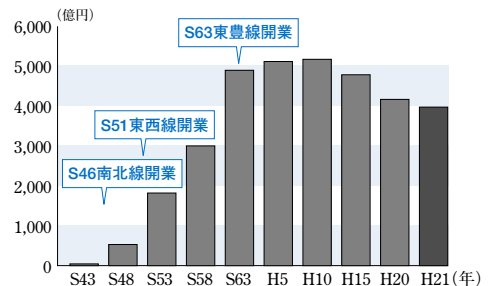
雪に強い地下鉄は冬になると利用者が増加。お盆休みなどで通勤・通学客が減る8月は落ち込みが激しい

課題

多額の借入金 と利用者数の伸び悩み

地下鉄の乗客数は、建設当初の見込みを下回り、乗車料収入は停滞しています。一方、総建設費は約7千億円に上り、平成21年度末で3,992億円の借入金を抱えています。業務の外部委託化などで経営の効率化を進めていますが、借入金の元金と利息の返済が大きな負担となっているため、返済の一部は、市の基本的な事業の経費を支出する一般会計からの補助金により行っています。

■借入金(企業債)残高の推移



借入金残高は増加していたが、路線の新設などが落ち着き、平成10年をピークに減少に転じている

取り組み

乗客数を増やすため さらに便利に、安全に

厳しい経営状況ですが、市では地下鉄の利便性をさらに高める取り組みを進めています。今夏には全駅へのエレベーターの設置が完了。25年度にはICカード乗車券SAPICAがバスと路面電車でも使用可能になるほか、30年度には転落を防ぐホーム柵を全路線に完備します。ドニチカキップなどのお得な乗車券も発売していますので、市内のお出掛けには、ぜひ地下鉄をご利用ください。

ICカード乗車券「SAPICA」



地下鉄の利用金額の10%がポイントとして貯まる割引サービスのほか、クレジットカードからの自動入金や、各駅で定期券の継続購入が可能など、便利な機能が満載。